

周南市若手教員育成ビジョン

平成 28 年度 周南市教育研究センター

周南市教育研究センターでは、「基本方針」に基づき、この「若手教員育成ビジョン」を定める。

若手教員を対象に育てるべき資質能力の4領域を中心とし、「5年次までの教員の育成視点」と計画的で実践的な研修会や人材育成会議等の開催によって組織的に人材育成を図る。

■若人の会研修事業

適切な講師選定、研修講座内容・方法による研修会によって、4つの領域の資質能力を身に付け、自らの資質能力を伸ばそうとする意欲（自己教育力）を向上させる。

(1) 若年教員の育成すべき主な資質能力

- 授業力・道徳力
- 学級経営力
- 生徒指導・保護者対応力
- 人間力

(2) 若人の会研修の実施にあたって（別紙）

若人の会研修が効果的に実施できるように、その概要（趣旨、申し込み手順、研修会年間予定、留意事項等）を若手教員に周知する。

人間力が資質能力の中心にあつてこそ実践的指導力は育成される。そこで、「若人の会研修モデル」として次のような運営方法を行う。

- ① 各研修会では、事前に軽微な事前研究課題を課し、意欲的に受講する。
- ② 研修意図シートに「研修のねらい」「研修方法・展開」「研修後の自己修養（研修マネジメント）」を明示して配付し、研修会開始時に確認する。
- ③ 若人が研修会当日の運営を自分たちで進める方式とし、事前に打ち合わせを行う。
- ④ 座学だけでなく、演習・ワークショップ、研究協議等を設け、受講内容が深まるようにする。
- ⑤ 研修会終了時に必要に応じてアンケートを実施し、記名者にはコメントを記入して各参加者個人へ返す。

(3) 若人の会研修会年間予定（概要）別紙

□ 事業評価

評価を生かした事業の改善と人材育成効果を高めるために事業評価を実施する。評価計画は別途定めるものとする。

- 学校での人材育成のすすめ方と教育研究センターとの連携（別紙）
- 5年次までの教員の育成視点（別紙）
- 人材育成の年次別重点事項

1年次（初任者研修）（例）

- 「授業づくりのスタートライン」に沿った授業実践
- 学校での組織的OJTの指導方針・ルール等の徹底

2年次以降（例）

- 2年次以降のキャリアステージ及び個の能力や適性に応じた育成計画・研修
- 「人材育成個人計画表」「人材育成個人カルテ」、育成面談等に基づく資質向上の確認
- 「課題別自由研修」の内容・すすめ方
- 人間力を土台に実践的指導力を高める自己修養

■道徳教育研究協力員事業

概ね3年次～10年次の若手教員を対象として、市がすすめる道徳教育を推進する人材を育成する。

■市人材育成スペシャリスト会議

学校と教育委員会・教育研究センターが連携して、臨時的任用教職員を含む若手教職員の資質能力の向上及び人材育成スペシャリストの指導力の向上等を図るため、定期的に会議を開催する。

参加者

初任研指導教員、フォローアップ研修担当者、学力向上推進教員 等

開催時期・回数

7月下旬、11月中旬、2月下旬、年間3回（予定）

会議及び研修内容

- ① 学校と教育委員会、センターの連携による人材育成
- ② 人材育成ビジョン、5年次までの育成視点、周南市の水準、若人の会研修モデル、年次別重点育成事項
- ③ 若手教員等の人材育成のすすめ方
- ④ 人材育成に係るスペシャリストの役割、資質
- ⑤ 各校の人材育成の取組・評価、実践報告
- ⑥ 若人の会研修事業、道徳教育研究協力員事業の実施状況、事業評価 等